「ことばの教育」パイロット校事業　報告書

学校名	東広島市立高美が丘小学校
校長名	今 橋　孝 司
所在地	東広島市高屋高美が丘四丁目１番１号
ＨＰ	takami-sho@city.higashihiroshima.hiroshima.jp
学級数	２８
タイプ	Ⅰ・Ⅱ

１　研究の概要

（１）研究主題

自ら考え，思いを伝え合う学習活動の創造
―言語技術を取り入れた
国語・算数・道徳の授業を通して―

（２）研究のねらい

国語科・算数科・道徳において，「言語技術」を活用した学習方法や学習内容を工夫すれば，思いや考えを伝え合ったり理解したりする力が身に付くことを，実践を通して明らかにする。

（３）研究組織・体制

校　長
教　頭
研究推進委員会
校長，教頭，教務主任，研究主任（パイロット教員），研究４部長
研修部
研究主任（パイロット教員）　研修部員
国語部　算数部　道徳部　わくわくことば部

２　２年間の取組みの概要

（１）平成１７年度の取組み

教科等	取組み内容
国語科	①「言語技術」の意図的な指導 ・「言語技術」を指導する時間の設定 ・「話す技術」「書く技術」のポイントを押さえたトレーニングの実施（「筋道を立てて話す・書く」「根拠をもとに議論する」活動を中心に構成） ・トレーニングで身につけた力の活用 ②「対話」を取り入れた学習 ・自己内対話（書く活動），グループトーク（少人数での対話），クラストーク（全体対話）の学習過程への位置づけ
道徳	①自分の思いや考えをもつことのできる「心に響く資料」の選定 ・子どもたちの心に響く資料の選び方や手順をふまえた資料分析の仕方（理論研修） ・効果的な資料提示方法（理論研修，授業研究） ②思いや考えを伝え合う手だての工夫（対話） ・道徳性に関する実態調査をもとにした発問の構成 ・多様な道徳的価値観を引き出すことができる発問，安易な考えに流れてしまわないようにするための切り返しの発問等の工夫 ・自己を見つめるための「自分の思いや考えをもつ」「友だちと交流する」「書く」時間の確保

（２）平成１８年度の取組み

教科等	取組み内容
国語科	①学習課題と連動したワークシートの工夫をしたり，自分の考えが残るノートの使い方の指導をしたりするなど，「書く活動を通して」自分の読みを確かにすること ②発言の中から共通点や相違点を引き出し，ねらいに迫ることのできる「発問の工夫」 ③全員が意欲的に話し合いに参加するための「クラストーク・グループトーク・ペアトーク」の設定
算数科	①課題や発問の工夫，既習の想起をはじめ，ヒントカードや助言，ワークシートを工夫することにより，まず自力解決を支援 ②「結論先行」や「ナンバリング」など，「言語技術」に関する話し方のアドバイス
道徳	①自己内対話の設定と教師の発問による揺さぶり ②児童の思考を深める共通のノートとして，考えの違いが映し出されるような板書の工夫 ③心に響く資料の選定や提示方法の工夫
わくわくことば	①児童の実態と活動内容の吟味による年間計画の作成 ②「言語技術」の指導の継続（指導案，資料，板書計画等の作成）

３　研究の成果と課題

（１）成果

＜全体＞

○「わくわくことばタイム」における継続的な「言語技術」の指導と各教科等における「言語技術」を取り入れた学習の展開，論理的思考力やコミュニケーション能力を育成する手立てを講じることによって，児童が自分の考えや思いを分かりやすく伝えたり理解したりすることができるようになってきた。（授業記録分析）

○児童の研究評価アンケート（資料１，２）によると，論理的思考力やコミュニケーション能力に関する数値が５月に比べて１２月が２～５％下がっている。しかし，授業中の発言や作文を見る限りでは，これらの能力は年度当初より伸びている。これは，児童自身の評価の基準が高くなったからではないかと考えられる。

＜論理的思考力＞

○音読を継続することにより，児童の教材文を正確に読み取る力がついた。

○学習過程に「書く」活動を位置づけたり，筋道を立てて考えを書くためのワークシートの工夫をしたりすることにより，児童が思考を整理し，相手に分かりやすく書いたり話したりすることができるようになった。

○考えを比較したり順序を確認したりすることができるような板書の工夫をすることにより，教師が児童の考えを整理することができた。

＜コミュニケーション能力＞

○様々な機会をとらえた対話の実践により，年度当初より話すことが好きになった児童が増えた。

○発達段階や学級の実態をふまえて対話の形態を変えることによって，学習目標に到達させるための活発な話し合いをすることができた。

○具体物や半具体物等，視覚に訴えるものを準備することによって，児童が自分の考えを明確にもち，順序立てて分かりやすく話すことができた。

○自分の考えをまとめた題をつけること（ネーミング）によって，考えの相違点が明確になり，学習目標に到達できるような話し合いができた。
○対話を，個（自己内対話）―少人数―全体―個（自己内対話）という過程を基本とすることにより，一人一人が考えをもち，意欲的に発言し，相手の考えを聞きながら自分の考えをまとめることができた。
○登場人物になりきって気持ちを考える役割演技，自分の気持ちを表現することのできる心情円盤などの活用により，対話をより深めることができた。

（2）課題

＜全体＞

○学習のゴールが児童にとって話したり書いたりする値打ちのあるものになっていない。児童が意欲的に話したり書いたりするような学習のゴールを教員が設定する必要がある。そのための学習内容や学習方法について研修していく必要がある。

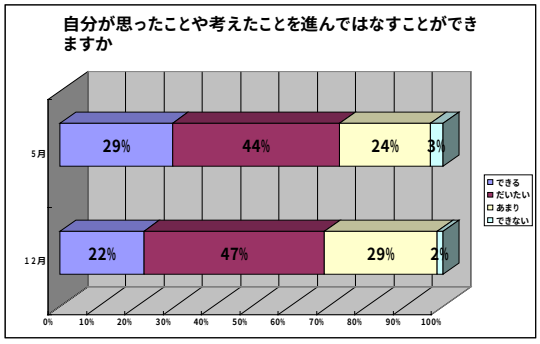
＜論理的思考力＞

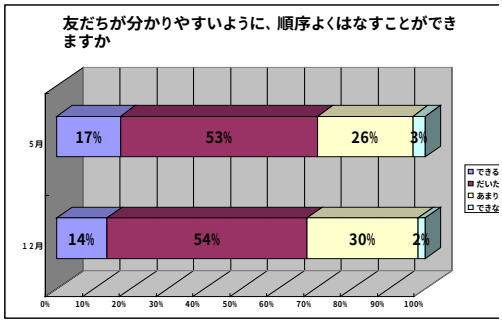
○論理的思考力を高めるためには，学習過程の中に「書く」活動を位置づけ，継続的に指導していく必要がある。
○論理的思考力を高めるためには，個人差や実態に対応できるように，複数のヒントカードを準備したり，内容の吟味をしたりする必要がある。
○教科等の内容と「わくわくことばタイム」の内容をさらに整理・統合し，系統性のある「ことばの指導計画」を作成する必要がある。
○論理的思考力の伸びを客観的にとらえるためのデータ収集や分析のあり方を研究する必要がある。

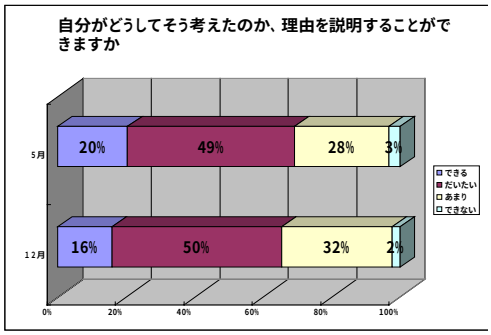
＜コミュニケーション能力＞

○友だちの発言に対して深める意見や広げる意見を述べたり，質問をし合いながら考えを深めていったり，何らかの反応を返したりといった人と関わる力が十分育っていない。
○学習目標に到達させるためには，深い教材研究をし，児童の話し合いを深化させるための「発問」「切り返し」「発言の組織化」を工夫する必要がある。
○話をキーワードで聞き取る力，さらにキーワードで聞き取ったことをもとに自分の考え述べることのできるような聞き手を育てる取組みが必要である。
○全員での話し合いに参加できない児童に対する手だてを講じる必要がある。

【資料１】







【資料２】研究評価

評価する内容	評価の方法	児童・教員の現状	5月	期待する効果	12月
コミュニケーション能力の向上	・コミュニケーション能力に関する評価項目を設定し，4段階で自己評価を行う。	①「最後まで話を聞くことができる」	93%	95%	90%
		②「話す人の目を見て，うなずきながら聞くことができる」	77%	90%	73%
		③「自分が思ったことや考えたことを進んで話すことができる」	73%	85%	69%
基礎学力の向上	・基礎学力向上に関する評価項目を設定し，4段階で自己評価を行う。	①「友だちが分かりやすいように，順序よく話すことができる」	70%	80%	68%
		②「自分がどうしてそう考えたのか理由を説明することができる」	69%	80%	66%
		③「分からないことがある時は，進んで質問することができる」	67%	80%	65%
		④「話し手が，何を言いたいのか考えながら聞くことができる」	81%	90%	78%
		⑤「友だちの考えを聞いて，『なるほど』『そんな考えもあるのか』と思うことができる」	93%	95%	93%
教師の指導力	・教師の指導力に関する評価項目を設定し，4段階で自己評価を行う。	①「ねらいに到達させるための主要な発問を組み立てることができる」	82%	90%	89%
		②「児童に，自分自身の思いや考えを十分に表現させることができる」	56%	80%	68%
		③「児童の発言を組み立てて，学習のねらいに導くことができる」	78%	85%	89%
		④「考えの流れが分かりやすい板書を工夫することができる」	74%	90%	90%
		⑤「教材分析力がある」	63%	80%	68%

５月の数値より高い　期待する効果より高い